

中西ふみとし通信

第16号

2026年7月
<中西文寿の議会報告>

〒355-0814
滑川町みなみ野1-10-21
TEL : 080-7980-8059

6月定例議会報告

本レポートが届く頃には本格的な夏を迎えていることと存じます。町内でも熱中症対策など、夏本番への準備が進んでいることと存じます。



私は特定の政党や会派に属さず、すべての議案に「是々非々」で向き合っています。住民の皆様と同じ目線と生活感覚を大切に、審議に臨んでおります。

さて、第252回定例議会は2026年6月2日から6月5日までの会期で開催されました。審議された3件の議案は、いずれも原案通り可決されました。私も町政の発展と暮らしの向上に資すると判断し、すべてに賛成いたしました。

今後も住民視点での精査を続けてまいります。詳細はぜひお問い合わせください。

<6月定例議会審議結果> 審議の分かれた議案

議案番号	議案の概要	結果
議案第28号	学校給食費負担金が県から支出されること等による一般会計補正予算案	賛成多数 (賛成11、反対2)
議案第29号	滑川町指定避難所空調施設設置工事の工事請負契約の締結	賛成多数 (賛成12、反対1)

コラム：「県予算編成並びに施策に関する要望」提出を受けて

全員協議会での議論を経て、町村議長会へ議会として3点（①こども医療費助成拡充②国保税準統一に伴う激変緩和措置等の再検討③嵐山小川IC・熊谷広域幹線道路の整備促進）要望しました。今まで議員間で議論・調整する場面が少なかった中、全員で意見をまとめ提出できたことは大変意義深く、今後の活動に生かしていきます。

公式サイト



Facebook



Instagram



滑川町議会議員 中西文寿

Mail : nakanishi.suppo789@gmail.com

今回登壇した議員は9名。中西からの質問（抜粋）は以下の通り。

■テーマ1：防災行政無線の難聴対策とSNS（公式LINE）の有効活用

【コンセプト】

音声が届きにくいという「物理的限界」を指摘するだけでなく、町民の生活インフラとして浸透している「公式LINE」を即座の自動配信手段として結びつけ、新旧のツールを組み合わせた「情報の多重化」と高齢者層への丁寧なフォロー体制を町から引き出すプロセスを可視化する。

1. 質問と再質問のポイント	2. 町の答弁（詳細）	所見・提言・引き出した成果
【当初質問】		
地形や建物の遮蔽等による防災無線の「聞こえづらさ」に対し、現在町が把握している課題と、戸別受信機の設置実績や敬遠する声への対応は如何か。	防災無線の課題は「聞こえ難い」という問合せや近くの住民からの「音が大きい」という意見。戸別受信機の推奨や防災メール登録をお願いし、音量はスピーカー調整等で対応している。	戸別受信機の個人宅設置数は99台、設置率1.15%に留まる。大多数は聴取できているとの認識だが、設置ハードルを越えて「設置せざるを得なかった」数字の重みを受け止め、潜在的な困窮層への一步踏み込んだ危機感を持った対応を求めたい。
【再質問：公式LINEの自動配信】		
文字情報として手元に残る公式LINEは非常に有効である。防災無線の放送内容を即座にLINEで自動配信する仕組みを導入すべきと考えるが、町の所見は如何か。	（前向きな回答） DX推進の1つとして、防災行政無線の放送内容をLINE登録者へ自動配信できるようにシステムを構築中である。間もなくLINE配信が実施できる。	【大きな成果】 迅速なシステム構築と間もなくの運用開始という答弁を得た。素晴らしいシステムだからこそ、従来の手段との組み合わせ（情報の多重化）が重要。
【再質問：緊急時の運用体制】		
夜間や休日の緊急放送（行方不明者捜索等）であっても、タイムラグなしに自動で即座に配信される運用体制になっているのか。	放送原稿の作成から決裁までは従来通りだが、無線放送後は直ちにメールとLINEで自動発信される仕組みを構築した。ただ、デジタル関連の情報発信は職員が在庁していることが条件。	迅速な自動発信の仕組みを高く評価する。今後は夜間・休日等の職員不在時における運用上の課題や注意点を整理し、さらなる実効性を高める体制づくりを期待したい。
【再質問：高齢者層へのフォローと広報】		
スマホを持たない高齢者層への配慮も含め、各手段のメリット・デメリットを整理して『広報なめがわ』等で分かりやすく比較特集を組むべきではないか。	（前向きな回答） LINE運用開始に合わせて広報やホームページに特集記事を掲載する。また、スマホ教室や講座を継続開催し、不慣れな方のレベルアップを丁寧に図っていく。	【一歩前進】 単なる「LINE開始のお知らせ」に留めず、防災メール、戸別受信機、LINEの特性を一覧化した「比較表」の掲載を強く要望。主体的に手段を選べる親切な広報特集に仕上げしてほしい。

■テーマ2：駅周辺における環境美化の推進と喫煙マナーの向上に向けた施策

【コンセプト】

単なる「綺麗にしましょう」という道徳的な要望に留めず、実態に合わない看板やマナー違反がもたらす「具体的な財政負担（住民の税金）」を数値として白日の下に晒し、行政・企業・隣接自治体を巻き込んだ「実効性のあるロードマップ」と「条例化の検討」を町から引き出すプロセスを可視化する。

1. 質問と再質問のポイント	2. 町の答弁（詳細）	3. 所見・提言・引き出した成果
【当初質問】		
森林公園駅周辺の「おにぎりの包みやペットボトル」のついて捨てに対し、視覚的なピクトグラムや多言語表記を取り入れた看板デザインへ刷新すべきではないか。	現在の看板表示が散乱しているごみの実態と必ずしも一致していない面がある。今後はごみを視覚的に示したピクトグラムの活用や多言語対応への切り替え・設置を順次行っていく。	玄関口の美観維持に向けた前向きな姿勢を評価。外国人を含むすべての利用者に「ついて捨て禁止」を自分事として自覚させるため、実態に即したデザインへの早期刷新を促したい。
【再質問：具体的なロードマップ】		
看板刷新、平日クリーン活動、条例化、鉄道事業者との連携について、具体的に「いつから動き出すのか」のタイムスケジュール（ロードマップ）は如何か。	不法投棄状況の確認を今月から開始し、今年度中に看板デザイン等を検討、来年度に設置する。平日クリーン活動は来年度実施に向け今年度早急に協議する。鉄道事業者へは今月中に相談を行う。	【大きな成果】 「今年度中」「今月中」という非常に明確でスピード感のある工程を引き出した。形骸化させることなく、関係各課が連携して一步一步着実に実行へ移すことを強く求める。
【再質問：企業連携と隣接市町連携】		
工業団地企業と連携した「平日クリーン活動」の創設や、境界を接する東松山市と協力した統一デザインの啓発ポスター等の作成についての見解は如何か。	平日における清掃活動は企業等が参加しやすい仕組みづくりとして有効。工業団地会などと連携のうえ実施に向け検討する。また、ポスター等のデザインについても東松山市と協議していく。	一般住民に新たな負担を強いることなく、地域の主要プレイヤーである企業を巻き込み、市町の境界を意識させない形での効果的な啓発活動の実現に大いに期待する。
【再質問：清掃外部委託費の実態】		
マナー違反のツケが税金負担になっている実態を共有したい。現在駅周辺の清掃委託（シルバー人材センター等）にかかっている費用は年間いくらか。	環境課分（町内全域の集積所清掃等）が約213万円、建設課分（駅前広場や公園等の清掃・ゴミ片付け・トイレ清掃等）が約571万円、総額で約784万円の予算が動いている。 (本件分の内訳表示は不可)	【事実の可視化】 週2～3回、献身的に汗を流してくださるシルバー人材の方々の方々の労力と、多額の財政的コストの実態が明確になった。利用者のマナー向上こそが、住民サービス向上へ予算を有効活用するための鍵となる。